

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月29日～

先週は大きく円高が進み、日経平均は今まであまり見なかったような大暴落となりました。今週の日銀金融政策決定会合で日本が利上げするという予想が強まったことや政治家の円安是正発言、さらには世界的なIT規制に関する憶測から半導体、テック系企業の株が売られ、ナスダックや日経平均の暴落がリスク回避的な動きをさらに強めたようです。

今週は、日米ともに金融会合があるため荒れる可能性はありますが先週大きく動いただけに、今週は乱高下があっても先週ほどパニック的な動きにはならず、少しずつ落ち着いた動きが戻ってくる可能性があります。

日本が利上げ、米国が利下げについて消極的なら円高、株下落の動きが再燃するリスクがあります。逆に、日本が利上げ見送り、米国が9月利下げ濃厚、年内にさらなる利下げがあるという予想が強まれば円安、株高の動きが強まり、急落した分、反動で大きく円安、株高が進む可能性もあります。どちらにせよ、日銀金融政策決定会合、FOMCの前後は荒れた動きが想定されるためリスク管理をしっかりと、動きを見極めてからポジションを考えてもいいかもしれません。

さらに、来週は米国企業の決算発表も多く、マイクロソフト、メタ、アマゾン、アップルなどの決算発表があります。先週ナスダックが暴落しているだけに米国のテック系企業の決算発表にも注意がいります。

そして、週末には米国雇用統計もあり、気が抜けません。

また、欧州やカナダはすでに利下げに転じているためクロス円の多くも今年後半にかけては下がっていく可能性があります。

ドル/円、クロス円ともに下落、さらには米国株が週足で見ても下落トレンドに転換した場合は、数年サイクルで見た大きなトレンド転換が起こる可能性があり、今までの円安、株高トレンドを基本的に考えてトレードしていた場合は、戦略の見直しが必要になってきます。

日足だけでなく、週足の流れに変化が出ないかも注意しながら、今年後半のトレード計画をじっくり考えていきたいです。

ファンダメンタル的に円高になる要因があり、テクニカルも週足、月足で下落トレンドに転じた場合は、大きく円高に動き出す可能性が高く、2022年春以降の米国利上げ開始から続いたドル高円安トレンドは終わる可能性があります。

## ● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は木曜に一瞬152円を割り込むところまで円高が進みました。

この日は日経平均も1000円を超える記録的な下げとなり、8年ぶりの下げだったという話です。

先週金曜は、木曜に比べて安値を切り上げてきているので、週明けは戻す可能性があります。

まずは、156円あたりまで戻せるかどうか注目です。

156円を超えると158円あたりが視野に入ってきます。

日銀金融政策決定会合とFOMCが水曜にあるので、水曜には一度利益確定して、日米の金融会合の結果を見極めた方が安全かもしれません。

急騰や急落が起こるリスクがあるため余計な指値注文などもキャンセルしておいた方がいいです。

下値は、153円を割り込むと再度151円台後半まで下落するリスクがあります。

151円台後半は2022年、2023年につけた高値で重要レートです。

割り込めば、中長期的に円高が進んでいく可能性が高まります。

### <気になるクロス円>

クロス円も大きく下げているペアが多く、先週安値を割り込む動きが出れば危険です。

買った場合は、必ず損切り注文を入れて、利益が出ている時に利益確定できるように指値注文などで利益確定を入れておいた方がよさそうです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合、日銀展望レポート、6月鉱工業生産、植田・日銀総裁定例会見、などがあります。

米国では5月ケース・シラー米住宅価格指数、6月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、7月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、7月ADP雇用統計、4-6月期四半期雇用コスト指数、7月シカゴ購買部協会景気指数、6月住宅販売保留指数、FOMC政策金利、前週分新規失業保険申請件数、7月製造業PMI(改定値)、7月ISM製造業景況指数、7月雇用統計、6月製造業新規受注などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで4-6月期GDP(速報値)、7月消費者物価指数、7月製造業PMI(改定値)などがあります。

ほかには、オーストラリアで消費者物価指数、カナダで5月GDP、英国で政策金利、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。